

介護の時代の情報誌

[ベターケア]

Better Care

92
2021
Summer

夏

特集 住みたいたい社会に向かつて

「品位ある命の保障」のある社会へ。
あきらめないで、いま、一緒に語ろう。

井手英策
〔慶應義塾大学経済学部教授
インタビュアー・中澤まゆみ「ノンフィクションライター」〕

楽しさ、生きがい、自信、仲間。
いつまでも、もちづけたい。

池田右文
〔株式会社池田介護研究所代表取締役〕

多彩な活動で、利用者の才能を引き出す。
地域の力を糧に、暮らしづやすいまちをつくる。

稻田秀樹
〔株式会社さくらコミュニケーションティーケアサービス代表取締役〕

安心できる仲間のいる地域づくりを。
楽しい場所があり、

オレンジカフェKIMAMA
〔東京都世田谷区〕

町内会でつくった居場所。

だれでも、いつでも、助け合って。

入新井4丁目町会「ひまわり」
〔東京都大田区〕

お手紙弁当は地元の人々が活動している。
関係性を大切に、働くことが喜び。

特定非営利活動法人クママル
〔神奈川県横浜市都筑区〕

「生きづらさ」を感じたら、診療所に遊びにきてください。
片岡侑史
〔ココロまち診療所院長〕

百人百色の介護

大垣市
〔岐阜県〕
倉敷市
〔岡山県〕

新連載

いえに帰るために①

宇都宮宏子さんに聞く
高齢者の入退院時、
考えておくべきことは?
中澤まゆみ「ノンフィクションライター」





これからも皆様の人生にそっと花を添えて!

ワクチン接種が進み、外出を再開したいという方々の声が少しずつ増えてきました。
コロナ禍で得た気づきを糧に、これからも皆さまの人生にそっと花を添えてまいります！



以前行った
思い出の海外のあの場所にも



温泉でゆっくりまったり



人生最後の願いを叶えたい

人生を振り返ったとき、笑い話にできるよう、いつでも準備万端で！

あ・える俱楽部のお客様で運よく東京オリンピックチケットが当選された方々は、この2年間、観戦を心待ちにされていました。中止になるかも、入場制限になるかもと、すっかり様変わりした自分を取り巻く環境のなかで、ハラハラドキドキしながら過ごしてきました。

オリンピックが東京では無観客開催となりましたが、無観客でなくとも「入所している施設が、外泊を伴う旅行や新幹線での移動を認めてくれない」「感染者が減らない東京に行くのはリスクが大きすぎる」などの理由で観戦が叶わないお客様に、かける言葉もできることも見つからず、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。

また、先日は後見の方から「ワクチン接種も済み、これまで中止していたお出かけを少しずつ再開したい。足が弱くなってしまったので、無理のない外出から始めたい」と連絡をいただきましたが、再度の緊急事態宣言でそれも延期となりました。それでも「オリンピックには行けないけど函館に行こう」「コロナが収束したら別の機会で必ずお願ひしたい」「お楽しみはもう少し先」と、最後には明るい声で気持ちを切り替えられます。

「東京オリンピックはコロナで大変だったけど、その代わりに行った旅行が楽しかったね」と、人生を振り返ったときに笑い話にできるよう、いつでも準備万端でいなければと気持ちを引き締めています。

これまでの20年、これからの10年と希望の道は続いていくもの

トラベルヘルパーサービスを始めた今から20年以上前は、お客様も介護旅行の先駆者として大きな苦労があったはずです。その方々の旅行や外出のお蔭で、今ではハードもソフトも整ってきてています。お一人おひとりのお客様の勇気とその積み重ねが、より住みやすい社会に変え、道をつくっています。10年後は、もっと気軽に外出や旅行ができる社会になっているはずです。希望の道は続いていくものですね。

自宅にある鉢植えのクチナシがここ5年ほど花を咲かせませんでした。昨年、庭に植え替えたところ、今年は可憐な花を咲かせてくれました。クチナシの花言葉は「とても幸せです」「喜びを運ぶ」「洗練」「優雅」だそうです。コロナ禍で、今まで想像したことになかった不自由な生活の中で、新しい人生の過ごし方、自分にとって大事なものは何なのかなど、多くの気づきがあったと思えば、コロナに勝てたことになるのではないでしょうか。

クチナシの花言葉のようなトラベルヘルパーサービスで、これからも皆様の人生にそっと花を添えてまいります。どうぞ引き続きお身体大切にご自愛ください。

介護旅行の1,300件の事例を紹介しています

【トラベルヘルパーマガジン】<https://travelhelper-magazine.jp/>



【トラベルヘルパーのご用命はあ・える俱楽部へお気軽にどうぞ！】
株式会社 SPI あ・える俱楽部 URL <https://wwwaelclub.com>
 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-24-11-1F
 TEL.03-6415-6480 / FAX.03-6415-6488 / e-mail tabi@aelclub.com
 ※トラベルヘルパー（外出支援専門員）®は株式会社 SPI の登録商標です。

楽しさ、生きがい、自信、仲間。 いつまでも、もちづけたい。

池田右文

[株式会社池田介護研究所代表取締役]

かなえるデイサービス

当初の取材予定は、2020年1月。ところが、新型コロナ対応で二転三転。今回、ようやく取材できた。そんなにも取材したかった理由はその多彩な活動にある。多くの介護事業所が行っているアクティビティとは、一味も二味も異なっている。

青森県八戸市内・馬淵川にかかる大橋にほど近いどつしりした住居が、かなえるデイサービスまる（まる）。元建築会社社長の自宅だったというだけに、丁寧なつくりで広い庭もある。四季折々の木々が植わり、バーベキューや流しそうめんなども楽しめる。建物内には、ほかに

居宅介護支援事業所まるも入っている。ゆつたりとソファーにくつろぐデイサービス利用者は、この日は15人ほど。そのほとんどが、3台の車に分乗して10分少々の距離にある畑へ。トイレを済ませて出かけるが、畑の隅にはトイレがあるので、安心。

キュウリなどの収穫に訪れたものの、なんと採れたのは3、4本。みんな大笑い。それでも折角きたからとニンジンやピーマンの畠の草取りに精を出す人、おしゃべりに花を咲かせる人、黙つて空を見上げてウグイスの鳴き声に耳を澄ます人など、スタッフの用意したお茶を飲みながら思い思いに時を過ごす。何もしなくても広い空を眺めて、土や草の香りのする風に吹かれているだけで、なんだか気持ちがいい。少し雲が厚くなつて、風が冷たくなってきたところで、そろそろ帰る。

「かなえるデイサービスまる」のコンセプトは、利用者の希望や思いをかなえるということ。それまでずっとしてきた農作業をしたいという



かなえるデイサービスまるは、今日は農業の日。楽しいね



右文さんと里菜さんは仲良しカップル。同じ目標を見据えている

漬物企画はどうとう、「東京で売ろう」ということになり、新幹線に乗つて八戸から、1年目は六本木へ。2年目は飯田橋、青森県アンテナショップ北彩館東京店の特設売り場へ。利用者さん自ら販売。こんな旅行ができるのは、池

利用者がいるからかなえる。折角、無農薬でつくった大根だから漬物にしたい、漬物が美味しいできたから売りにいきたい、その思いをかなえる。「包丁は危ないとか、もう何かするのは無理、とか周りは先回りして考えがちですが、けっこう、みなさん、大丈夫です。若いスタッフよりよほど安心」と豪快に笑うのは、代表取締役社長で所長の池田右文さん。

株式会社池田介護研究所

代表取締役 池田右文

〒039-1103

青森県八戸市大字長苗字代内舟渡 73-3
TEL & Fax 0178-32-0097

- ◆ かなえるデイサービスまる
- ◆ 無添加お弁当『二重まる』一番町・
二重まるカフェ
- ◆ ウェルネスサロンキャトルフィユ
- ◆ 居宅介護支援事業所まる
- ◆ まんまるファクトリー
- ◆ トラベルヘルパーセンターハ戸



「仕事をすることで、皆さん、生き生きと働いている。
士の春日さん。そして、弁当箱への盛り付け担当、メニュー・シールを貼る担当、味噌汁担当、食器洗い担当、玄関わきのレジ担当と、二重まるの利用者全員が、分担してお仕事タイムで働いている。これは、高齢者と障がいをもつ人がともに利用する定員10名の共生型通所介護施設。20歳の利用者も生き生きと働いている。

おしゃれな四葉

高齢利用者に「高台のまる」と呼ばれている

田さん自身が、毎号、本誌で紹介しているトラベルヘルパーだから。介護を必要とする人も、安心して安全に旅を楽しめるように手配している。もちろん、味噌や漬物など全商品は通信販売も可能。

まるの予定表は、毎日、なにかのイベントで埋まっている。農業、カラオケ、ヨガ、チエアエクササイズ、アロマハンドクリームづくり、フェイシャルエステ、書道…。なかには「しまむらでショッピング」や「乗馬体験」、季節によっては「屋形船ツアーや「新そばツアーや「なども。「トラベルヘルパーがいるので、安心して皆さんを外出にお連れできます。イベントは毎日あるので、生活に張りができます」

もちろん、体調などで参加できないときもある。ただ、イベントは年に1、2回ではなく毎日のようにあるので、次の機会には参加できる。まるが実現しようとしているのは、健康と美。

「外出にお連れできます。イベントは毎日あるので、生活に張りができます」

もちろん、体調などで参加できないときもある。ただ、イベントは年に1、2回ではなく毎日のようにあるので、次の機会には参加できる。まるが実現しようとしているのは、健康と美。

「外出にお連れできます。イベントは毎日あるので、生活に張りができます」

もちろん、体調などで参加できないときもある。ただ、イベントは年に1、2回ではなく毎日のようにあるので、次の機会には参加できる。まるが実現しようとしているのは、健康と美。

田さん自身が、毎号、本誌で紹介しているトラベルヘルパーだから。介護を必要とする人も、安心して安全に旅を楽しめるように手配している。もちろん、味噌や漬物など全商品は通信販売も可能。

まるの予定表は、毎日、なにかのイベントで埋まっている。農業、カラオケ、ヨガ、チエアエクササイズ、アロマハンドクリームづくり、フェイシャルエステ、書道…。なかには「しまむらでショッピング」や「乗馬体験」、季節によっては「屋形船ツアーや「新そばツアーや「なども。

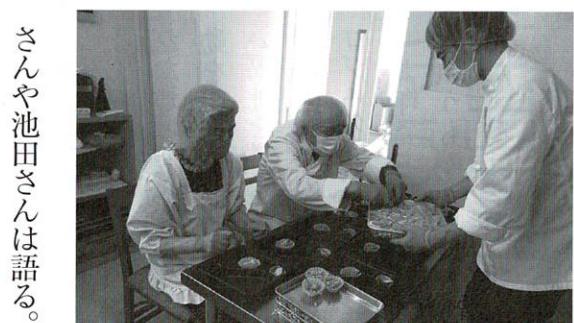
田さん自身が、毎号、本誌で紹介しているトラベルヘルパーだから。介護を必要とする人も、安心して安全に旅を楽しめるように手配している。もちろん、味噌や漬物など全商品は通信販売も可能。

まるの予定表は、毎日、なにかのイベントで埋まっている。農業、カラオケ、ヨガ、チエアエクササイズ、アロマハンドクリームづくり、フェイシャルエステ、書道…。なかには「しまむらでショッピング」や「乗馬体験」、季節によっては「屋形船ツアーや「新そばツアーや「なども。

趣味と活動・生活・お仕事、という4つの分野のすべてで、その人らしい思いを実現できる手助けをすることなのだ。

無添加お弁当と共生型デイ

合同庁舎にほど近い一番町に、しゃれたカフェがある。2020年にオープンした二重まるカフェ。隣接する無添加お弁当『二重まる』一番町（二重まる）は、その前年の開設。連日、20～40個ほどのお弁当の注文を受けて配達。もちろん、お店に買いに来られるかたにも販売している。日替わりお弁当500円、コーヒー付きランチ700円。この日のメニューは、アロマテラピスト監修による今日のイベント弁当。「もちもちジューシーよだれ鶏」がメイン。すると二重まるの利用者の昼食も、ここでつくっている。キッキンでおかずをつくっているのは調理士の工藤さん、盛りつけを指揮しているのは介護士の春日さん。そして、弁当箱への盛り付け担当、メニュー・シールを貼る担当、味噌汁担当、食器洗い担当、玄関わきのレジ担当と、二重まるの利用者全員が、分担してお仕事タイムで働いている。これは、高齢者と障がいをもつ人がともに利用する定員10名の共生型通所介護施設。20歳の利用者も生き生きと働いている。



盛り付けは二人体制。どう配置すると映えるのか、考えながら

割をもち、生きる自信を取り戻せます。また、お弁当を買いにきてくれたり、隣接のカフェでお茶を飲んでくれる地域のかたと交流できる場でもあります」と管理者の中村さんや池田さんは語る。

飲み物のほか、自慢の手づくり味噌を配合した味噌ソフトクリームも人気だ（おいしい！）。

ただ、まだ若い障がいの利用者は少なく、「私の好きな芸能人のことをみんなは知らない寂しい」という。孫と祖父母くらい、年が離れているのだから無理もない。七夕の願いを順にいうときも、高齢の利用者は「元気で過ごしたい」「健康でいたい」というなか、一人、彼女の願いはその好きな芸能人に「会えますように！」だった。

このカフェ部分は、建築の心得のある利用者を中心に、フランス・プロヴァンス風の塗り壁を模して塗るなど、利用者やスタッフ総出で改築に取り組んだ。利用者にとって、特別な思いをもてる居心地のいい場所だ。

のが、午前中だけの半日型デイサービス、ウエルネスサロンキャトルフィユ。ヨーロッパ風のおしゃれな建物で、木材を多用したデザイン性の高い室内、高級なソファーや照明器具は、介護施設とはみえない。和訳をすれば健康サロン四葉となるが、「美容と健康に特化したデイサービス」というのが池田さんや、介護福祉士であり株式会社の総務も担う池田里菜さんの思い。

ここで行われているプログラムは、健康のためのヨガやエクササイズ、美容のためのフェイシャルエステ、アロマテラピーなど。里菜さんは、夫である池田右文さんが、独立して介護サービス事業を志したとき、アロマテラピーの専門学校に通い資格取得したのだという。プラスティック食器は使わない、よくある介護用テーブルやイスではなく少し高級感のある家具を使う、というのは一人が共通して考えていたこと。「私たちが行きたいと思える、おしゃれで心地いい場所にしたかった」という。そういう譲らないところが里菜さんのいいところで、事業の大きな助けになっていると、右文さんはいう。

さて、キャトルフィユでは新たな挑戦も始まっている。午後の時間を使って、それぞれの歩行機能に応じた、6か月短期集中型の外歩き専門のデイサービスを始めたのだ。

これまで、まるでも、メニューの一つとして、美や健康のためのプログラムを入れているが、今回試みるのは、作業療法士の柴崎元さんと一緒に、介護予防やリハビリテーションに取り組



キャトルフィユで始まったe-foot を使っての歩行訓練&お散歩



キャトルフィユでのヨガ。終わったらアロマテラピーを受ける

「こういうかたちでも、専門職と一緒にできることはとてもありがたい」という池田さん。ゴムの弾力を利用したe-footという歩行補助具を使って、近くの公園などでリハビリをする。また今後は、TRXという、自分の体重と重力を使って体幹をトレーニングをするサスペンションのシステムを取り入れたいという。そこに専門職が参加する意味は大きい。

新型コロナで、地域の集会所で展開してきた地域づくり、居場所づくりの活動「まんまるファクトリー」は、午後2時から1時間ほどヨガやエクササイズなどを開催。午前の総合事業通所Cと夕方からのこども食堂は中止中。コロナ後の再開時には、新しいかたちも考えたいという。「介護が必要になつたらすぐに施設入所、ではなく、ちょっとした支援が得られれば、住み慣れた地域で長く暮らせるはず。もつともっと活動を広げて、5年後、10年後も見据えた新しい福祉を考え実践していきたいですね」

池田さんの頭の中には、これから始めたいプロジェクトが目白押し。そのどれも、子どもからお年寄りまで明るく楽しく暮らせる地域をと願うもの。地域で待たれている新しい風だ。まだまだ今後も、八戸から目をそらせられない。